

令和5年度 第3回 京丹後市総合教育会議 会議録

・日 時 令和6年1月22日（月）午後1時～午後2時15分

・場 所 京丹後市役所 3階 302会議室

・出席者 京丹後市長 中山 泰

京丹後市教育委員会 教育長 松本 明彦

同 教育長職務代理者 野木 三司

同 教育委員 関 美幸

同 教育委員 田村 浩章

同 教育委員 安達 京子

京丹後市副市長 濱 健志朗

<事務局>

教育委員会事務局 教育次長 引野 雅文

教育委員会事務局 教育理事兼総括指導主事 久保 有紀

教育委員会事務局 理事兼学校教育課長 川村 義輝

教育委員会事務局 教育総務課長 西村 隆

教育委員会事務局 学校教育課係長 上田 明子

市長公室 政策企画課長 松本 晃治

・傍聴人 1名

・次 第

1 あいさつ

2 議題

(1) 京丹後市の新たな教育・人材育成の在り方に関する検討会最終まとめ（案）
について

(2) 令和6年度予算案の検討状況について

(3) その他

（事務局：政策企画課長） それでは定刻になりましたので、ただいまから令和5年度第3回京丹後市総合教育会議を開催させていただきます。本日の司会進行を務めさせていただきます政策企画課長の松本でございます。どうぞよろしくお願いいたします。それでは開会にあたりまして、中山市長からご挨拶を申し上げます。

・用紙

1 あいさつ

(市長) 教育総合教育会議でありますけども、今日はお集まりをいただきまして、教育長はじめ教育委員の皆様、本当にありがとうございます。何かと、日頃から本市の子供たちの教育をはじめ、教育全体でいろんなことでお世話になっております。まちづくりもお世話になっております。ありがとうございます。

さて、今日は新年早々というタイミングでありますけども、昨年 8 月にも中間まとめをご報告させていただいてご意見をいただいたわけですが、本市の新たな教育人材育成のあり方に関する検討会をもっていただいて、そして、この間ずっと、約 1 年ですね、ご検討いただいたものを中間まとめ案を経て、最終的なものを作っていただいたということで、ご報告をさせていただいて、そして意見を賜りたいなというふうに思っております。それから、現在、編成を行っております来年度の予算案の検討状況につきまして、ご報告させていただいて意見交換をさせていただければなというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局：政策企画課長) ありがとうございます。それでは、議事に入ります前にペーパーレス会議として資料の方をタブレットの方でご確認をいただけたと思います。ご覧いただけますでしょうか。それでは、早速議題に入って参ります。議題の方からは、京丹後市総合教育会議設置要綱第 4 条の規定によりまして、市長が議長となりますので、中山市長どうぞよろしくお願いいたします。

(市長) はい。それでは次第に沿いまして、議事を進めさせていただきますどうぞよろしくお願いをいたします。まず、次第の 2、議題 1、京丹後市の新たな教育人材育成のあり方に関する検討会最終まとめ（案）につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

2 議題

(1) 京丹後市の新たな教育・人材育成の在り方に関する検討会最終まとめ（案）について

(事務局：教育委員会事務局教育理事) 資料 1 説明

(市長) ありがとうございます。それでは、ただいま事務局から説明のありました内容について意見交換をしたいと思います。どなたからでもどうぞよろしくお願いいたします。

(委員) 見させていただいて非常に分かりやすいし、どこに軸足を置いていこうとするのかというのもわかりやすい資料になってるし、これからの時代を見据えて、踏み出

そうとするというところが、本当によく分かるというふうに思っておりますし、大きな理念としてこちらの方向ということも理解はできますし、進めていただきたいというふうに思います。

その転換をしていくっていうところでなんですけれども、もちろん皆さん分かってらっしゃると思いますけど、今までの詰め込み型、先生が言うことをよく聞いて、板書をよく写して、暗記をする。そうじゃなくって、子供たち主体に子供たちが自らっていうところ、もちろんそうなんですけれども、そういったところで、それがイコールで、子供たちの未来の可能性を豊かにするとか、誰も置いていかないっていうところにイコールで繋がるように、っていうところが、父兄としてとか保護者としては気になるというか、何が言いたいかというと、今までの型の授業が得意な子、不得意な子がいたと思います。今回のようにまた、このような空間とか環境を与えられて、タクトを渡され、イニシアチブを渡され、それが得意な子もいれば、返ってそうじゃない子も必ず出てくると思います。その時に、先生方がファシリテーターとなりという、非常に難しい手綱というか、そういうスキルが求められるような、そういった変化もこれは含んでいるというふうに思いますので、そういったところ、やはり、大きな理念として、誰も取り残さず、本市の教育環境で豊かな未来をっていうところにしっかり繋がっていきけるような、というところが少し気になるので、添えさせていただきたいというふうに思います。

あと、1つ教えていただきたいのが27ページの特例制度を利用して、例えば1割程度、数学、理科から総合的な学習の時間にという、このシステムについてなんですが、これは単純に数学の教科書をやる、理科の教科書をやる時間を削るということが良いでしょうか。

(事務局：教育理事兼総括指導主事) 教育課程上の内容自体を減らすということではないです。それぞれ今の教科書においては、もう少しその知識を使って、汎用的に使うような場面も授業の中にありますので、そういった部分を総合的な学習の時間で使う。そういった意味で理科や数学の学習内容を総合の中に持っていきたいなという意味です。

ただ、時数的には、決められた時数が、数学も理科もありますけれども、その時数を総合にプラスしてっていうのは、特例制度でしかできないことですので、内容面ではなく時数面ってわかりますかね。補足してもらってよろしいですか。

(教育長) 標準時数というのがあってこれは国で決められてる時数でこれはしていかんやならないんですけれども、その上下させるのは特例という制度を使わないとできないというか、標準時数から少なくしたり増やしたりということはできないので、より探求的な学びをしていく上では、総合的な学習の時間を少し増やして、探

求の学びを今していこうとすると、他のものを少し落とした形でやっていくという特例制度というのを使ったことで、初めて標準時数から上下させることができるという仕組みになってますので、探求をもう少ししていこうとなると、特例制度を今の段階では使っていくということになるので、そこも視野に入れていきましょうということなんですが、要はこういうものを使って、探求的な学びをしっかりとさせましょうと、総合的な学習の時間だけではなくて、教科の中でも探求的な学びはするんですが、教科の中には基礎的な学習と発展的な学習っていうところでそういう探求的な時間を何時間か単位ごとにとり取ってたりするので、それを算数でするのか、うまく総合的な学習に寄せ換えてやるのかっていうようなところになりますので、そういうところをうまく使いながら、ですから、例えば算数を5時間削るから、学習内容が削られて、学びがおぼつかなくなるとかっていうのではなくもともと発展的な時間っていうのも設定してありますので、そうした時間をうまく活用するというようなイメージだと思います。

それと委員が言われるようにその通りで新たな探求的な学びとかに進むが求める資質能力っていうところを皆さん、子供たちに育てていかなきゃなんないんだけれども、当然今までの知識、技能っていうところは全く疎かにされるわけではなくて、そこを基盤とした上で、そうした力をつけていかなきゃなんないということで、どなたかが書いていただいておりますが、不易と流行というところで、不易の部分として、基礎基本というところの部分は、これまで通り大切にしながら、そういう学びをしていこうと、ただ今まではともすると基礎基本に偏り過ぎていた傾向があって本来求める資質能力になかなか、時間が割けていなかった現状がありますので、そうしたところを今求められる資質というところで、不易と流行の部分を上手に絡めながら、教育を進めていこうという意味で考えております。

(市長) これはあくまで一市民としてなんですが、数学と理科とかを学んでそれをどう現実世界に応用していくか探求していくかっていうのは、当然教育の本質を考えたときに大切な事柄であると思うんですけど、他方で同時にその数学と理科って、いかにさらに進めていくときに、ああいうような学問分野だからこそ、いろんな考える角度を、たくさん持つ訓練をしていくっていうのは、数学と理科自体の学びを本人の中で深めていく上でも、とても大切だというふうに思うときに、探求的な学習を通じて、結果、数学と理科の理解をさらに深めていく、自分の中で発展させていくっていうことにすごく繋がるような気もするので、そういうなこともターゲットの1つに、私がちょっと教育の中身におよんで言う立場では必ずしもないんですけど、これを通じて、結果、数学と理科の深みもられると思うのでそれを教育目標の1つに入れられるのも、いいんじゃないかなとは思ったりしました。

(教育長) 市長の言われる通りでして、そこがSTEAM教育と、昨日の教育フォーラムでも聞いていると思うけどSTEAM教育が目指してるところでもありまして、単に理数を、教科として学ぶだけではなくて、実際の生活の中に応用したりとか、探求的な学びの中に活用していくっていうのがSTEAM教育の本質的なところだと思いますねそういうところも丁寧に、京丹後 Sea Labo での学びをうまく、教育課程の中に組み込んでいくということで、やれないかというところでやっているとございます。

(委員) ちょっと細かいことは、また後程質問させていただくんですが、資料全体を見せていただいて、何度か提案をしていただいて、今日最終的なものを拝見をさせていただいたということで、わずか5万人ぐらいの地方都市での教育の資料として、このようなすごい資料が提案されるっていうのは私は驚きの他にないんですが、私たち一般住民とするとややもすると、教育の無償化だとか、給食の無償化だとか、そういったものがすごくわかりやすい提案というふうになるんですが、やはり教育行政というのはやっぱり全体を通しての、この街の教育はどう進むべきかということ提案しなきゃいけない。そういう意味では、非常に深く、広く提案されてるすごい資料だなっていうふうに思っております。こういったものを作り上げてこられた、教育委員会もそうなんですが、ここに関わっておられる委員のメンバー、この方々も、私も全員の方々知る余地もないんですが、何人か知ってる方もいらっしゃるんですが、そういう方々を思い浮かぶと、そういう適材適所のいい人材を、選ばれてだからこそうい資料が上がってきたんだな。そんな思いがしております。

我がまちの誇れる教育の提案だなというふうに、率直にそういうふうに、この資料を、何度か読み返す中で感じさせていただきました。細かいことはまた後程させていただきます。以上でございます。

(教育長) 本当に言っていただきましたように委員の皆様は、非常に深い知見を持って、全国というだけでなく、世界で、アメリカの方での委員さんもいらっしゃるような方々ですので、この機会、今回でもこの検討会は終わってご承認いただくことになるんですけれども、この方々のご縁であるとか、知見をこれで終わらせるのは大変、忍びないというかもったいないというふうに思っておりまして、検討会の最後ではですね、来年度からアドバイザリーボードという形で実施指導助言とかをいただく方として任意ではございますけれども引き続き協力をお願いすることで進めておりますので、今後もですね、そうした方々に、濱副市長も含めまして、指導助言をもらいながらですね、進めていこうというふうにも思っております。

(委員) 昨日、私は教育フォーラムに参加させていただきました。その中で Sea Labo も、実際に見学をさしてもらったり、そして発表も聞かせてもらったり、それからリーディングコンテストの子供たちの感想、それから Sea Labo での子供たちの感想、実際の子供たちの声を聞きたいと思っていました。

そこで子供たちの素直な言葉を聞いて、この計画に並行して、それをやっておられて、実際にその成果というものを子供たちの言葉の中から、実際うまくいかなかった Sea Labo に参加してなかなかうまくいかなかったけれども、うまくいかなかった中でも、いっぱいいろいろな人に意見を言ってもらったりする中で自分はいろいろな方法を考え出して行って、満足ができて、最後はすごく納得がいくような結果に終わったというような話もしましたし、それから子供たちが英語のリーディングコンテストの子供たちは、本当にね、楽しいと、この英語の勉強が楽しい、そして ELSA を使って行ってどんどんどん自分がかう上手になっていくのがもう本当に楽しくて、英語の文章見たら読みたくなるとか言う子もいっぱいいて、自分の中で失敗を恐れずにどんどん、どんどん、やってみたいという気持ちが起こるといことが、まず勉強というか、知識を与えられてすり抜けるんじゃないかって、自分が求めて、得るものっていうのは残っていくので、この子たちはそれが残っていくんだろうなあ、一生の宝物になるんだろうなと思って聞いていました。

まだ一部の子が経験したことなので、京丹後市全体の子供たちはまだ経験をしていないと思います。その中でこういう指針が出て、全部すべての子供にその子に合った教育をしていくとか、自分が中心になって、どういうことがしたいかということ。それから、地域の中に企業さんの協力してくださる方の中に入って、こういうことを、こういうものにも自分は挑戦してみたいんだということが、あれば、地域に残って、またそこで働いて、もっと良くしていこうという子供も現れるかもしれないなあなんて思いながら、昨日はすごくいい意味で、良いフォーラムだったなと思って聞いていましたので、この計画が絵にかいた餅ではなくって、実際にずっと学校の中で生かしていけたらとてもいいなというふうに感想を持ちました。

それから、この中で中高連携のところと地域丸ごとプロジェクトのところがもう一息、具体的によくわからないのですが、プロジェクトに参加してくださる企業がどれぐらいあって、教えてくださる人材が、どういうふうにして育てていかれるのかなあとか、高校との関係性で、高校生は中学校と関わりたいていう子がいっぱいいましたけど、中学生もそうだと思うんだけどそれが実際にどういう形で進んでいくのかというところが、これからも進めて行って欲しいなと思いました。

(委員) 私も昨日教育フォーラムに参加させていただいて、話を聞いて実際またこの資料を読み返すと、よりよく、この資料が本当に京丹後市の全体のことを子供たちのことを考え、そして未来のことを考えて作った資料であるということが、すごく実

感できた内容だったなと思います。

その中で、先ほど説明がありましたが、その子供たちのアンケート結果をここに載せていただいたということはやっぱり子供たちがどんな思いなのかっていうことが、やっぱり多くの方々に知っていただける、それから支援の必要な子供たちの実態っていうのも、私もこの市内はどういうふうになっているのかなっていうふうに思っていましたので、これをこの資料の中に入れていただいたということは、この2つのことも大事にしながら、やっぱり子供が主体になっているんだっていうことがこの資料の中からうかがえるなっていうふうに、思っていました。

実際にこれを土台にしながら、京丹後市の教育はこれから新たな教育が進んでいくわけですが、子供を主体にした教育、その事業を進めるのは現場の先生であるので、子供を主体にした授業っていうのは、どんな授業なのかっていうあたりが、みんなそれぞれ頭ではこんなかな、あんなかなっていうふうな、いろんなイメージだと思うんですが、それではもうバラバラで、やっぱり市の統一っていうのか、一応モデル事業というのが、こんなのが目指すものなんですよっていうものを、今後、そういう研修の機会があれば、とっていただけたらありがたいなっていうふうなことを、思いました。

それと、この資料を見ていると、今までも地域との連携、繋がりっていうのを大事にされていますが、より地域との密接な繋がりが必要になって、市内の教育を進めていくんだっていうことが、かなり明確にここに明記されてるようになったなっていうふうに思いましたので、現場の先生方も、もっともっと地域との連携を大切にしながら、探求的な学び、それから授業づくりを進めていく必要があるかなっていうふうなことを感じました。ありがとうございました。

とてもよくわかる資料で、今日、これからの子供たちに、ここの市内で教育を受ける子供たちが、本当に大事にされて、そしてすばらしい力をつけて、大人になっていくんだなっていうことが、よくわかる資料だったなというふうに思います。ありがとうございました。

(事務局：教育理事兼総括指導主事) それこそ、授業っていうところでは、先生方の研修というところはもう欠かせないもんだなというふうに思っています。それこそ、文字でイメージするものは1人ずつ様々違いますので、そこを少しずつみんなで共有できるようにというところで、先生方の研修も今まではどこかのそういう授業をされてる先生に来ていただいて、それをモデルとして見て、それを自分たちで吸収して授業に落とし込むという形をとっていたんですけども、来年度はうちの先生方に1人伴走支援として外部の方もつけながら、一緒に授業を作り上げていくっていうことを進めたいなというふうに思っていますので、1回きりではなくって、長いスパンをかけて、先生方の人材育成も含めて研修をしていくということを1つ

考えているというところがあります。

それから市の学力向上対策会議というものもあるんですけども、やはりそこでもこの令和 5 年度、探求的な学びを通して子供たちの授業を変えていきたいと思いますところを謳っているんですが、探求的な学びをイメージするのも人それぞれまたバラバラというところもあり、まずは教師がそのイメージを共有し合うワークショップをすごく大事にしなければならないのではないかとということで、今年度中に、来年度の学力の方向性を、この前、代表者、皆で考えまして、来年度それぞれの学園で、まずは、京丹後市が目指していくその授業、学力向上に関わるものが、どういったものであるのかっていうことの、みんなでのワークショップをそれぞれ学園でやっていこうみたいなお話にもなりましたので、中間まとめ、そして最後のまとめをおろしながら、先生方の授業を変えていかなくちやならない、指導感を転換させていかなければならないという意識が、今すごく広がってきていますので、いよいよ、そこに具体的な支援を来年度は、教育委員会としても、施していかなければいけない段階にきたかなというふうに考えています。

(教委長) それと議員の皆様にも、こうした計画っていうところでは、実際、先生方にどのように落とし込んでいくのが重要だというご指摘も議会の方でもいただきましたので、ですから今日ここでご承認いただきましたら本年度中の校園所長会議っていうようなところで、校園所長先生方にも具体的なところを示しながら、大きな方向性を、そして来年度からの具体的な動きにつなげていくようなお話をさせていただいて、そして先生方がいろんな学校や学園や研究組織の中でそうしたところを落としていただいて各教員の方にそうした理解が深まるようなところを丁寧、この 3 学期していかなきゃならないというふうに思っております。

(委員) この資料の中で私は制度的検討を行うっていうことで学びのボーダレスプロジェクト、中高連携の促進に向けて、関係者でさらなる制度検討を行うというところがありました。私は全体の中でここが非常にグッと私の中に残ってまして、当然、近未来のことなんでしょうけども、市長が以前、京丹後市立の高校を作りたいんだというようなことを以前おっしゃってました。そこからすれば、もう少し現実味帯びたといいますか、そういう提案がしてあるんだと思うんですが、私はこれが本当にこんなことができるのであれば、他の市町にはない、画期的なことだなというふうに、思っているんです。単独市が市営で高校の何々科を作ってしまうとか、本当にそんなことができるんだろうかと。できたら、めっちゃめっちゃ面白いな。っていう、教育特区みたいな、そんなことでも京丹後市がやり遂げて、こういう仕組みを作り上げて欲しいというふうにほんとワクワクしながら、文を読んでおりました。

具体的にじゃあこうだという私の中ではありませんが、こういう私なんか夢

を見れるような、こういう提案をしていただけるってのは、非常に面白いですし、ここの部分だけでも、先ほどのメンバーの方々がずっといらっしゃるということなんで、ここを掘り下げてできるように、委員会でもプロジェクトを作って欲しいなって、そんな感じがしておりますので、市長、期待しておりますので、お願いします。

(教育長) 先ほど言いましたようにこの委員の中に峰山高校の岡田校長先生も入っていただいております。そうした中で、探求的な学びを一貫性、連続性のあるものにして高校にもつなげていこうっていうようなところも、お伝えしていて、そのところも十分ご理解いただいております。先日、府教委の府立高校のスクールミッションっていうのが公表されております。峰山高校は、ちょっと読ませていただきますと、「大学や地域の関係機関との連携を深め、郷土を愛する心と質の高い学力、グローバルな世界で活躍できる国際感覚を身につけることによって、想像力豊かに社会に貢献できる人材を育成する」と、こういうスクールミッションにしてくれてますというか、こうした検討会とかでの会議の部分も十分理解いただいて、そうした人材を育成することを峰山高校としては、スクールミッションにしているということで、そうした検討した会議の内容をこう高校でも繋げていただけるような下地づくりが進んでいるんじゃないかなというふうにも思ってます。

(副市長) ありがとうございます。いろんな方々から Sea Labo ですか先ほど ELSA のお話ですかいただいたかなと思います。私もこの委員会の中で委員の方々のいろんなお話を聞いて、そういった部分を非常に評価していただいているのは、教育委員会の方々を中心に、非常に精力的に取り組んでいる大きな成果かなと思うんですけども最終的には、やはり皆さんも懸念されてるように学校教育の中でこういったことがどれだけできるかっていうところが、大きな肝になってくるかなと思いますので、そこをもう一段階踏み込んで、来年度以降、やっていくことが非常に重要なと思います。

せっくなので私、前回、最後 1 月 16 日のこの検討会の最後のときの委員の中で、校長先生が一言おっしゃったのが非常に印象に残ってるんですけども、生徒が、急になんかこう変わったように見えた。給食の委員をされている男子の生徒みたいなんですけれども、今までは普通に委員をこなしてたのに、何故かあるときをきっかけに、前向きに自分で何かを変えられないかですとかそういった提案ですとかそういったその表情もですし、その姿勢とかもすごい変わったっていうのがあって、それは何だったんだっていうのが他の先生が聞いてみると、SeaLabo に参加していろいろきっかけがあって変わって、自分の中で何かできるんじゃないかっていう思いが変わったっていうのを聞いて、正直私その話聞いただけでも、京

丹後に来てよかったなど、本当にそれだけでも思えたぐらいだったんですけども、もう 1 回最初の話に戻りますけれども、そういったところをいかにもう 1 回学校教育の中で先生たちも含めて、もう 1 回作っていくかっていうのが非常に大事になってくるかなと思いますので、今、教育委員の先生方もおっしゃっていただいたようなところをもう 1 回来年度、今年度、今からも含めてですね、やっていくことが非常に重要なというふうに思ってるところです。

(市長) ありがとうございます。本当に、このすばらしいプロジェクトですね教育長をはじめ教育委員の皆様、事務局、濱副市長含めてですねいろんな関係者の皆様が、検討委員会の委員の方にお願ひし巻き込んで真摯なご議論をいただいて 1 年間かけて、ここまで、まとめていただいて、首長の立場からとっても、喜ばしくうれしく思ってます。本当にありがとうございます。

教育は、言うまでもないことですが、これがまちづくり全体を考えたときにも一番発射となる核となる分野で、いかに教育の中心にある子供たちをど真ん中に据えて、子供たちが、総合計画にもあるわけですが夢や向上心をみずから主体的に生き生きと追っていきけるような、そして、仕組みとして誰 1 人取り残されないようなセーフティーネットも作っていくというような形の教育の仕組みを、今の時代環境、デジタルとかグローバルとか、そういったことの背景をしっかりと取り込んで、もっともっと未来の教育、人づくりに求められるような、要素を念頭にそれを取り込むような教育環境等を作っていくことができるのかというのが、これからの人口減少を前提として、豊かさづくりをどうつくっていくのかウェルビーイングなんか問われるような、そういったウェルビーイングの高い社会、そしてそれを引っ張っていくようなまちづくりをしていく上での担っていただくような子供たちを育まれる環境をどう整備していくかっていうのが大きな問題意識かなと思うんですけど、そういうようなことの中で、まさにそのエンジンとなるような報告書を作っていただくことができて本当にありがたいなというふうに思っています。

大切なことは、これを着実に速やかに円滑に課題はあって、前進してまた後退するようなことも、何かにつけてあるかとは思いますが、着実に前進をしていくような取り組みを行政部局も含めて、力合わせて進めていければなというふうに思っております。

そして近い将来、京丹後の小中学校で学ばせたいって言って、近隣から京都から近畿から日本中からまた世界の人と一緒にやってやれるようなですね、そういうような、学校環境、教育環境が出てくることを展望しながら、みんなですね、進めていければなというふうに思っています。本当にありがとうございます。

では、これについてはそういうことで、ご意見いただいて、それをこの報告書の

想い、精神に移し込みながら、これを最終報告とさせていただくと、成案とさせていただきたいというふうに思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(市長) それでは続きまして、(2) の令和 6 年度予算案の検討状況について、事務局から説明をお願いします。

(2) 令和 6 年度予算案の検討状況について

(事務局：教育委員会事務局次長) 資料 2 説明

(市長) ありがとうございます。それでは意見交換等させていただきたいと思います。どなたからでもよろしくお願いいたします。

(委員) 18 番の麦わらの体制強化を図るということで非常にありがたいと思うんですが、以前から視察も行かしていただいて、この施設の重要性ってのは認識していると思うんですが、他の市町、近隣市町でもこういった施設ってというのはございますでしょうか。

(事務局：教育委員会事務局教育理事) この近隣では、基本的にはすべて設置をされているというふうに認識をしております。

(委員) ありがとうございます。そういう中で、これだけの予算をつけて体制強化をしようということで意思表示していただいているんですが、今の職員さんといいますか、関わっておられる方のしんどさ、大変労力があると思うのと、まだまだ、こういった施設があるっていう認知も少ないし、そこへ行くアクセスなんか不備だと感じてるんです。是非ともこれだけの予算もつけていただくんですが、もっと何かこれを充実させるような強化をできるような施策をしていただければなという、そんな感じがしております。

(事務局：教育理事兼総括指導主事) ありがとうございます。麦わらの職員が全ての学校に行って、麦わらというところの説明は毎年、年 1 回は必ず行っているんですけども、保護者、地域の方にこの麦わらというものを広く知っていただくという形では、しおりを作っているんですが、それを全戸配布等はしていませんので、そのあたりの検討もしなければいけないなということは話しておりました。まずは知っていただく、そういう機関があるということを知っていただくこともすごく大事なこ

とであるというふうに考えておりますので、ご意見ありがとうございました。

(教育長) 今、委員が言われるように本当に不登校関係の支援っていうところについては、今言ったように、教育支援センター麦わらになかなか、距離的なところ、それから精神的な部分で、行こうにも行けない子供、それから、そうではなく学校には来れるけど教室に入れない子供、更には、どちらにもなかなか対応せず家庭から出にくい子供と地域ぐらいまではでれる子供など、様々な状況があるので、そうしたところにすべて対応していくのは難しいんですけども、教育支援センター麦わらを中心として、アウトリーチということで、訪問したり、近くで場所まで来れるならサテライトみたいな形でそういう支援をしたり、学校の別室を支援したりとかいうような、多様な支援をしていく上では、体制もある程度強化していかないとかなんないなということで、予算にも上げさしていただいているようなところですけども、そうした様々なパターンの支援をしていかないと、支援がなかなか進まない状況があるということを知っていただけたらと思います。

(委員) 1つ聞きたいんですけども、注目すべき新規の予算というのが上がっているの、とても良いかなというふうに思ってますけれども、先ほどの教育人材育成の在り方のところでも、ちょっと気になったって言えばよかったんですけども、先生方の負担軽減であったりとか先生方の働き方というところも、理想を大きく追うがために先生にしわ寄せがとか先生の負担が最初の段階では多くなるみたいなところは、避けていただきたいというふうに思いますので、そういったところで、予算に上げられている遠隔教育の導入でありますとか、小学校の留守番電話なんかもそうなんだと思いますし、別室登校の支援をふやすとか、そういった先生方の負担軽減に資するようなところっていうのにも、重きを置いてしていただきたいというふうに思うんですけども、14 番の、ちょっと僕知らなかったんで、ちょっと聞きたいんですけども、採点システムっていうのは、これは民間委託っていうことでしょうかというふうに軽減されているんでしょうかちょっとお願いします。

(事務局：教育理事兼総括指導主事) 3 校に採点システム、業者委託ではなくて学校の中にソフトウェアを入れてそれを先生方が活用して、採点を支援してくれるものです。

(委員) テストは紙ですか。

(事務局：教育理事兼総括指導主事) 紙のテストで、その紙をスキャンしたら、採点してくれます。記述式も全部読み取ってくれます。最終的には、もちろん先生方が確認をしますが、先生方の丸付け作業とかが一気に半減します。

(副市長) 単にマルバツをつけるという話では、子ども達をマルバツでしか評価できなくなるので、しっかりと先生が採点を見取って、ここは注意しなければならないところもチェックしてくれるので、子ども達の様子の見取りということも組み込んだ採点システムとなっています。

(委員) 評判は良いですか。

(事務局：教育理事兼総括指導主事) 先生方の評判は良いです。

(副市長) ただ、機械的にするだけではなく、子ども達の様子も見取りながら、ある意味、負担をゼロにしているわけではなく、一定の負担を残しつつ、そのバランスがとれているというシステムです。

(事務局：教育理事兼総括指導主事) 見させてもらいましたが、冷たくないというか、普通、機械化すると冷たい感じがすると思うんですけど、システムに載せてもあったかい評価がきちんとできるシステムだなというふうに思いました。

(市長) ほかの市町でも取り組んでいますか。

(教育長) 先週の金曜日に京都府の 14 市の教育長会議があったんですけども、いろんな様々な各市町の教育委員会が取り組んでる内容を協議する場なんですけども、働き方改革については、京丹後市が非常に詳しく書いていて、多くの方から質問をいただきました。採点システムはなかなかまだ、導入してるとか少なくて、何市かやってて効果が高いということをこの金曜日に聞かれた教育長さん方は、導入に意欲的にとらえておられましたけれども、なかなかまだ入ってはいないというのが現状だと思います。

小規模のところは、まずその読み取る前に手間が少しかかりますから、その部分で探求の中学校とかではなかなか働き方改革の効果が出にくいというところもあるのでうちは、3つの中学校ということなんですけれども、大規模になればなるほど、同じものをたくさんするので効果が高いというふうに聞かしてもらっています。

(委員) 違う質問なんですけど、先ほどの計画の中に学び舎の再設計が出てたんですけどもそれに関する資金調達というか、お金の面ではどういうふうになっているんでしょうか。クラウドファンディングとかでしょうか。

(事務局：教育委員会事務局教育理事) 検討会の中でも新たなプロジェクト、取組を行っていくためにはやはり財源確保も合わせて検討していくべきということは、ご指摘をいただいております。今、委員がおっしゃいましたように、学び舎再設計のプロジェクトを特筆した財源確保ということは来年度、まだ着手できてないんですけども、今年度、他の分野で、財源確保という意味でガバメントクラウドファンディングをさせていただいております、12月15日から3月13日までだったと思いますが、今ちょうど進めてるところです。目標金額が200万という設定なんですが、まだまだちょっと目標金額には達しておりませんが、そういった形で、予算を要求していくのと合わせまして、別途必要なものは、それに応じた財源確保ということで、クラウドファンディングなども活用して行っていきたいというふうに考えております。最終的には集まりましたご寄附につきましては、来年度の補正予算に計上して、予算を認めいただいて、事業を実施していくというふうに考えております。

(教育長) その働き方改革とかいうところではやっぱりICTの活用ということが本当に重要だなというふうに思ってますので、そうしたところの整備は遅れることなくタブレットの更新の時期も近づいてますので、そうしたところも丁寧にですね、教育委員会として対応しながら、子供たちがICTを効果的に活用して、そういう学びは結果的に先生方の授業の働き方改革にもなるという考えのもとで進めていこうというふうに思ってます。

(委員) 新たな教育人材育成の部分で、本当に予算を組んでいただいて、実際に進めるんだっていう強い思いが伝わってきたんですけども、7番のところの外部人材の登用ということで民間企業から人材登用というふうに考えておられるんですが、もう具体的に来年度のことですし、市内市外とか具体的なところの検討っていうのは始めておられるんでしょうか。もし、わかっていたら教えていただきたいです。

(事務局：教育委員会事務局教育次長) この外部人材の登用につきましては4月からスタートさせることが大事だと思っております、もうすでに、民間の企業、これは市外、東京の企業になるんですけども、秋頃から事前に打診なんかもさしてもらいながら、今、内定いただいているという状況ですけども予算がつけば、4月から来ていただけるように調整を進めているところです。

もちろん教育関係でいろいろと、事業の実績だとか、関わりがあるような企業さんで専門的なそういった知見だとか経験をお持ちの方で、いろんなプロジェクトあるわけですけども進めていくのにも、いろいろ民間も含めた豊富な経験をお持ちの方を予定していただいているというふうに聞いているところです。

(委員) わかりました。ありがとうございました。それでちょっと安心したというか、どんな企業の方がこられるのかなと思ってちょっと聞いてみたかったところです。

それから5ページにある19番の中学校の方の別室登校の支援事業ですけれども、中学校の方で今年度整備していただくということで、不登校の子供たちに、その時間的な事がやっぱり決まった時間内でっていうあたりが難しいのかなと思って、そういうあたりで相談員の方々が、限られた時間の中で対応するという事はなかなか厳しく、何か流動的な部分もあるのかなあと思ったりしながらいたんですが、そういう辺りはどういうふうにお考えなのか、もしわかったら教えていただきたいです。

(事務局：教育委員会事務局教育理事) 中学校の別室登校への対応ということで、現在も、2つの中学におひとりという配置ではありますが、スクールサポーターとして、心の教室相談員、という方を配置しております。この方々は教員免許をお持ちではないんですけども、各校のそういった児童性生徒に対応していただいております。ただ、2校におひとりという配置になっておりますので、やはりこの方々の役割は大変重要だと、学校からも大変ありがたいということもいただいておりますので、まずは、それを各校におひとり、今3人の配置を市内に6人全員で6人の配置に、まずはしていきたいと考えております。

(委員) ありがとうございました。なかなか麦わらにつなげたくてもちょっとつなげにくい場合もたくさんあるので、中学校2校に別室登校で相談できる支援事業っていうあたりは、今後、重要であって必要になってくる内容かなっていうふうに思います。また学園の中で必要であれば、ちょっとその相談員の方々と、小学校のいくつかの事例でも活用できるっていうような、ちょっとその許容範囲というのかそういうのも、支援として、今後できるのであればしてもらえると、心強いんじゃないかなっていうふうなことをちょっと感じました。以上です。ありがとうございました。

(市長) ありがとうございます。いかがでしょうか。では、意見も尽きたようですのでこの議題についてはここまでとさせていただきます。

次に(3)その他ですけども、皆様から何かご意見ご報告事項等はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは特にご意見、ご報告事項等もないようですのでこのあたりで、今日は終了させていただきたいと思います。進行を事務局にお返しします。

(事務局：政策企画課長) 活発な意見交換をいただきまして、誠にありがとうございました。

本日は、改めて京丹後市の新たな教育人材育成のあり方に関する検討会の最終まとめと、令和 6 年度予算の検討状況についてご確認いただいた次第でございます。

それでは以上をもちまして令和 5 年度第 3 回京丹後市総合教育会議を閉会とさせていただきます。本日は大変お疲れ様でしたありがとうございました。